



発行

令和3年3月31日  
相模原市文化財調査・普及員  
広報グループ

文化庁指定  
文化財愛護  
シンボルマーク

両手のひらと日本  
建築伝統の組物を  
イメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

## 「旧笹野家住宅を考える会」 発足と活動紹介

旧笹野家は江戸時代後期に旧上九沢村の名主を務め、農業・養蚕・質業を家業としました。また明治期には小学校の世話役を勤めるなど、村政・教育に深くかかわった名望家でした。旧笹野家住宅は江戸時代末期からの家屋が敷地一帯に残されており、「長屋門」と「主屋」が2015年に国登録有形文化財に登録されました。

「旧笹野家を考える会」は相模原市教育委員会による「旧笹野家住宅保存活用ワークショップ」(2018年)を契機に、屋敷地内にある文化遺産の保存と活用を図り、まちづくりに寄与することを目的として同年11月に誕生しました。現在会員24名、協力者14名で、鋭意に活動をしており、北部班を中心に文化財調査・普及員有志も参画しています。

1. 庭と主屋内の清掃 毎月の第2火曜日に前庭、裏庭、鳩川沿いの竹林を清掃しています。
2. 障子の貼替 延べ100人の手をかけて1年間で42枚の障子戸をすべて貼り換えました。
3. 主屋の簡易補修 羽目板の経年劣化が著しく蓋板を取り替えました。
4. PR活動 当会のパンフレットの作成や会報の「やまく」を発行しました(1～12号)。
5. 文化遺産の調査準備 襖、掛け軸等の書の調査を依頼するため状態を撮影し調査予定者に送付しました。
6. 植生(樹木)調査 「さがみはら緑の風」に依頼し、敷地内の植生(樹木)調査を行いました。54種、271本が記録されました。
7. イベントの開催 春祭り(200人参加)は裏千家のお茶会・文化遺産見学会・竹の子掘り、秋祭り(70人参加)はやまく大学・カフェやまく・竹細工作り等を行い、楽しく過ごす事が出来ました。(北部班 原)

目次	
・「旧笹野家住宅を考える会」発足と活動紹介……………	P 1
・麻溝地域の「開墾記念碑」「豚霊碑」「畜霊塔」の保存・移設が実現しました!……………	P 2・3
・田名向原遺跡交差点名	
・バス停名の由来……………	P 4



長屋門

主屋



前庭清掃

屋内清掃

障子貼替



簡易補修

会報発行

遺産撮影



春祭 茶会

春祭 見学会

秋祭 竹ぽっくり

移設先 開墾記念碑：市総合体育館駐車場南西角（南区麻溝台 2284-1）

豚霊碑、畜霊塔：市農協・J A 麻溝支店敷地内

三碑を保存する取り組みは、昨年5月から始まりました。当初は文化財調査・普及員南部班有志のとりくみでしたが、7月には、地域の方も参加いただき「残す会」を立ち上げ署名に取り組みました。特に、開墾碑に記載された当時の関係者77名のうち、約40名ほどを訪問し保存と署名をお願いしたことで、運動が大きく前進しました。最終的には1342筆の署名を集めて、再度、関係する諸団体に保存を訴えることができました。その後、多くの方のご尽力もあり、このほど写真のように移設が実現しました。

これまで、開墾碑は植栽に隠れてほとんど忘れられていましたが、地域の歴史を物語る貴重な資料、文化遺産です。この機会に改めて「開墾碑」や関連する資料からわかることをまとめてみました。

軍都計画のはじまり、わずか一か月で買収決定

開墾記念碑には二つの重要な「年」が刻まれています。一つは、昭和11年（1936）です。この年6月27日に、座間・大野・新磯・麻溝4か村の村長が座間村役場に集められ、陸軍から士官学校の移転とその練兵場用地として、約657町歩（約657ha）もの広大な用地買収を告げられます。開墾碑に書かれたこの年こそが、いわゆる「軍都計画」の始まりです。

用地買収には、「富士山が見える」「行幸に便利」など5つの条件があり相模原が適地だったようです。しかし、突然の買収話で、特に多くの農地を失うことになった新磯村と麻溝村の農民にとっては死活の問題でした。各村では、連日協議が行われ買収用地の縮小などを求め、軍や県と何度も交渉を行います。この過程で新磯村では自殺者が出るなど大騒ぎになりますが、当時の国家非常時局と軍の意向に抗することはできず、わずか一か月、7月20日には全村が買収を余儀なくされます。十分な補償もな

く大切な農地を失うことになりました。

そして、用地買収決定から3か月後の、昭和11年10月には陸軍士官学校の起工式が行われ、翌12年9月には士官学校生徒1300人が東京から移転。12月20日には「行幸」が行われ「相武台」と命名されます。さらに、造兵廠、兵器学校、通信学校、陸軍病院など他の軍の施設も次々と進出、道路や水道も整備され急速な「軍都計画」が進められました。

困難ななかでの新たな開墾、この碑をきっかけに

二つ目は、後半の皇紀2600年の記述です。昭和15（1940）年にあたります。大陸では日中戦争が本格化しており、翌年が太平洋戦争の開戦ですから、まさに国論が戦争に向けて一色になりつつある時です。このような時に、生活の糧であった農地を失う麻溝村の人々は、直ぐに失業農民対策委員会を立ち上げ、新たな開墾を主とする救済案を作成し、昭和11年末から14年3月にかけて様々な困難を乗り越えて二度の開墾を実施しました。そこで開墾された耕地面積は約56町歩（約56ha）ほどになります。開墾碑は、厳しい状況のなか農民の耕作に対する強い思いも後世に伝えています。

最後に、昨年発行された市広報「さがみはら」（2020年9月1日発行・No.1440）「相模原都市ヒストリー」にも軍都計画は紹介されています。こちらは「軍都計画を礎に」として、軍の進出でインフラ整備が進み全体として発展という視点でまとめているようでしたが、戦後、この軍用地の多くが米軍に接収され今日まで続いていることも忘れてはいけません。この移設された開墾碑をきっかけに、地域の人々がいかに困難を乗り越えて、現在に至ったのかを改めて知っていただければと思います。

（南部班 松永）



篆額揮毫 神奈川懸経済部長正五位勲六等 渡邊 廣

昭和十一年十月陸軍士官学校相武臺移転に伴ヒ、同校東京郊外練兵場亦相模原ニ設置セラレ本麻溝村大字下溝芝野二亘リ、畑地百七十町歩ノ広大ナル土地ヲ、右敷地トシテ譲渡シタル為、耕地ノ全部或ハ大半ヲ失ヒ農作不能ニ陥リシモノ多数ヲ生ジタルヲ以テ、村当局ハ之方対策ヲ講ズルヲ焦眉ノ急ナリトシ、村会ノ議決ヲ経テ失業対策委員会ヲ設ケ対策ヲ企画セリ。

就中最モ適切ナル根本的匡救ヲ目的トスル芝野耕地整理組合ノ設立ヲ図リ、昭和十一年十二月右設立ノ認可ヲ得、同時ニ開墾助成法ニ依リ農林大臣ノ司令ヲモ得テ、工費一萬三千二百余円ヲ以テ、二十八町六反九畝歩ノ開畑工事を起シ、翌年三月工ヲ竣リ。然ルニ前記事業ニ依リ開畑セラレタルモノハ失地々積ノ約六分ノ一二過ギズ、未ダ耕地ハ甚シク不足セルノ実情ニ鑑ミ、隣接地二十八町七反九畝ヲ、第二次開墾工事にシテ施工センガ為、芝原耕地整理組合ノ設立ヲ見。

昭和十二年十二月知事ノ認可ヲ得タリ。翌年七月開墾助成法ニ依リ農林大臣ノ司令ヲ仰ギタルモノニシテ、此ノ工費一萬三千百余円ヲ要シ、昭和十四年三月工事成ス。斯クラ既ニ開畑地ハ着々ト成功ヲ収メ、而モ七戸ノ移住家屋ヲ造リ克ク所期ノ成果ヲ挙ゲタルハ之偏ヘニ官民一致協力ノ賜ニシテ、殊ニ麻溝村当局ノ指導盡力ニ俟ツモノ頗ル多シ、開墾ノ業完成ヲ告タルニ当リ、郷土子弟ニ対シ永ヘニ農耕ノ志念ヲ伝ヘ常ニ發奮ノ資トナサンコトヲ憶ヒ、茲ニ皇紀二千六百年ノ嘉年ニ当リ開墾記念碑ヲ建テ後昆ニ示スコト爾リ。

神奈川懸耕地課長 淵田秋廣撰文 光明学園教諭 小林重良書



移設された開墾記念碑

相模原公園体育館駐車場、交番の近くに新たに移設された開墾記念碑。昭和15年(1940)3月建立。裏面に当時の関係者77名の名が刻まれています。

○「豚霊碑」裏面の記述

農家経済不調な時、その打開策として営農形態は多角経営方式から事業的経営に移行して来た。このような時に養豚経営も多頭飼育が各地に普及し、当地区にも従来とは変わった組織が農協を中心に発足した。

- 一、昭和廿六年二月一日 麻溝農協養豚部設立
- 一、昭和廿七年三月廿日 群馬県渋川より子豚導入
- 一、昭和廿九年九月廿日 年間二千頭出荷達成
- 一、昭和四十年三月廿日 年間五千頭出荷達成
- 一、昭和四十二年三月廿日 年間一万頭出荷達成

この間種々の難問に会ひ関係機関の助力と部員の強固な団結により苦難な道を乗り越え、ここに一万頭年間出荷達成を祝と共に彼岸に豚霊碑を建立する。  
昭和四十二年三月二十日建立



相模原市農協・JA麻溝支店敷地内に新たに移設された豚霊碑(昭和42年3月20日建立)と畜霊塔(昭和18年麻溝搾乳組合建立)

※さねさし第13号に関連記事掲載

## 田名向原遺跡交差点名・バス停名の由来

私たち文化財調査・普及員は、その活動として旧笹野家や2・3頁にあるような文化財・文化遺産の保存・活用活動、その他文化財等の普及活動など、多方面に亘ります。その中で、田名向原遺跡では、有志で案内・普及事業実行委員会を組織し、公園や旧石器ハテナ館で活動をしています。

すこし遡りますが、平成26年(2014)3月30日に、田名向原遺跡交差点・バス停が誕生しました。

旧名称「塩田下」を改名したのですが、我々実行委員会が地元自治会に要望し、実現したものです。市内に遺跡名がつけられた交差点やバス停が存在するか分かりませんが、文化財の普及活動として大きな成果があるものと自負しております。時に信号機看板で知ったという見学者が来園します。

田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会は平成19年4月の田名向原遺跡公園開園に合わせて編成され、遺跡案内をスタートさせました。見学者に遺跡の解説をすると皆一様に、この場所で2万年前に生活が営まれ、貴重な遺跡を残されたことに感動されていました。見学者にお話を伺うと、旧石器に興味を持つ市外・遠方からの方が多く、相模原市内の方は少ない傾向にありました。見学者を増やしたい、市内の方にも田名向原遺跡の存在を知ってほしい、ガイドをしながらメンバー同志で案内の<sup>のぼり</sup>幟を増やそう、目立つようガイドブルゾンを着よう、などなど知恵を出し合いました。その中に交差点名称変更の案も出されました。しかし、外部を巻き込んだ大掛かりな活動です。文化財保護課にも相談し、地元自治会に働き掛けることとしました。当然地元では「塩田下」の名称に慣れ親しんでおられます。一方で、これだけ貴重な遺跡があり、広く知らせたいという意思もありました。

活動にあたっては、実行委員会から地元自治会に対し、田名向原遺跡名称変更依頼を提出しました。我々の説明や思いを受け止めて自治会長たちが納得し、まず地域住民を説得してくれました。極めて好機であったのは、バス路線の変更で、ちょうどこの時期、望地キャンプ場から相模大野駅までであった路線を、新たに設置される田名バスターミナルから北里大学病院に路線が変更されるタイミングでもありました。

委員会と地域が一体となった活動が実り、交差点名・バス停の名称変更が叶いました。後日伺ったことですが、地元の田名地区連合自治会長が相模原警察署長と直接交渉し交差点名変更を、地元塩田自治会長がバス会社に出向き名称変更を依頼が行われたとのことで、これらを大きく前進させた一因となったのでしょう。

文化財調査・普及員の活動は地道なものが多いですが、常に文化財に関心を持ち、気軽に動けるフットワークの良さを生かし、これからも積極的に活動をしたいと思います。そして多くの仲間とともに、普及員の数だけある目を活かし、情報収集・交換を行い、常日頃楽しみながら行動していきたいと思います。

(田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会 嶋原)

### 田名向原遺跡交差点・バス停名称変更に関わる活動経過

- ・2010年 ハテナ館運営委員会で名称変更を提案
- ・2011年 文化財調査・普及員西部班定例会で話題
- ・2012年3月 実行委員会に提案
- ・2013年3月 実行委員会で再度提案  
地元自治会連合会に要望書を出すことの承認を得る
- ・2013年8月1日 田名地区自治会連合会に要望書を提出
- ・2014年2月 バス停名称は4月1日に変更確定
- ・2014年3月30日 田名バスターミナル開所式展  
式次第に地元の要請により名称変更と記載あり



田名向原遺跡交差点